

「土砂災害の原因とは何か。」

香川大学教育学部附属高松中学校 1年 本山 律 さん

四月十四日に起きた、熊本地震により土砂災害が起きた。土砂災害はなぜ起きるのだろうか。私は、三つの大きな理由があるのではないかと考えた。

一つ目は、森林の管理を怠ったからではないか。森林は、土砂災害の防止において大切な役割を担っている。森林に生えている樹木や草木が地面を覆い、その根が土壌を押さえる事で、雨による表面土壌の流れや、土砂崩れなどが防止されている。しかし、今では森林を管理する人が減っているのだそう。それは林業を仕事とする人が減っているという事だ。

私が小さい頃から家のメンテナンスに来てくれている大工さんは、日本は今、木材をほぼ輸入にたよっていることにより、定期的に森林に入る人が減っていることを話していた。調べたところ、一九六〇年には約四四万人の林業労働者がいたが、二〇〇五年には約五万人になっている。この問題は私が住んでいる香川県の大きな問題にも関係している。それは、高齢者の増加だ。林業労働者が多かった時代の人達は今は高齢者だ。しかし、今林業労働者が少ないということは、その人達が受け継いできた技術を学んでいる人が少ないということだ。するとこれから先、もっと少なくなり、いつからかなくなるのではないだろうか。

森林が担う役割は、土砂災害の防止だけではない。動物の住みか、食べ物となり、きれいな水、空気をうみだしてくれる。森林があれば山などで動物を狩る人も入りにくくなり、森をあらず動物達が増え、様々な環境問題をおこし、土砂災害もおきやすくなっていくだろう。

その解決策として私は、もっと山などの森林がある場所との関わりを深くするべきだと思う。例として、八月十一日を政府が山の日としたことを利用したらどうか。八月十一日辺りはちょうど夏休みシーズンなので、子供が楽しく山で活動できるイベントを開催して山への関心を子供の頃から強くして、将来の職業にしたいと考える子を増やしていけばいいと思う。

二つ目は、地球温暖化によって生じる異常気象だ。この異常気象により台風の数が増え大雨をもたらし、土砂災害をひきおこす。

土砂災害の仕組みを調べてみた。表面の土が崩れる場合、一度にたくさんの雨が降り、水が土中にしみ込みきれず地表に水が流れ出し、凹凸な場所に水が集中して水といっしょに土、石が流れだし表面侵食が続くと溝が大きくなり災害が起きる。もう一つ、深い層から崩れる場合、根こそぎ土ごと滑り落ちることなので、降水量が多く長時間続くと土中が水でいっぱいになり、土の粒同士が根底の岩石との境目の結びつきが緩くなり、間に水の層ができてしまうことにより土砂崩れが起きる。

日本は、もともと梅雨や台風などの時に一度に大量の雨が降る。世界の平均降水量の二倍半ほどだ。これに地球温暖化による異常気象が加わると、土砂災害による大きな被害が多くなっていくだろう。そのため、日本人の私達は、これ以上地球温暖化を進めないための努力が不可欠だろう。

三つ目は、日本の地形の問題だ。日本の国土の七十パーセントが山地で、大変険しい地形となっている。日本の山は、脆くて崩れやすい岩や土から出来ている。さらに川は、その地面をけずって山の上から海までの短い距離を一気に流れており、流れがとても急な川だ。このような日本の地形の特徴を合わせると、とても土砂災害が多そうな国だ。いわば土砂災害大国である。

日本は、地形的にも土砂災害が多くなってしまいが、地形はもう変えようがない。となると、私たちが一つ一つの問題を解決していくしか解決策はないのではないか。一人一人が環境に配慮しながら生活をすればいいのではないか。せめて変えられるものだけは変えていかなければならないのではないか。未来の子供達のために……。